

1. 教育理念・目的等評価

評価

1	1-1	教育の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
	①	在学中は、夫々の専門分野に於ける知識・技術を理解・修得し、卒業後もその将来に渡る分野の追求と活動を行っていきける人物像を目指す。2021年の開校以来、多くの国の学生が在籍し、エンターテインメント業界に於ける多様な理解と夫々が志す技術と知識を学ぶために国籍に関係なく構成されている。	
2	1-2	学校の特色が打ち出されているか	4
	①	アニメ会社・マンガ系の大手出版社への就職・デビュー活動について地の利効果を発揮している。夫々がプロ業界で通用する実践力を養う事を特色としている。プロダクションや出版社、制作会社からの依頼もあり、優秀な学生には、正規の授業に影響が出ないよう考慮しながら当学院が斡旋しており、在学中にデビューする学生もいる。地域の大手百貨店と提携し、学生作品の展示会を定期的に行い、地域との交流を図りながら相互理解の意識も育てている。	
3	1-3	学校の将来構想を抱いているか	3
	①	社会や経済のニーズを考慮し、現場で必要とされる人材を育成するために、随時カリキュラムのチェックや見直しを行う。アニメ・マンガ教育改革の推進と産学協同による実践的な教育の更なる質の向上を目指す。	
	②	今後は、更に各学科の特長に合わせた企業との連携や取り組み方を強化したい。年間計画を見直し、企業連携の取り組みや現場実習などを随時実施し、日本国内若しくは世界で活躍できるクリエイターやアーティストを育成したい。	
4	1-4	理念に基づく教育が行われているか	4
	①	引き続き、「個性を磨き、才能・能力を高め、技術を身に付ける」という理念に沿って教育方針を打ち出している。この教育理念は、入学後のオリエンテーションや通常授業、個別面談、クラスルームで繰り返しを説明し周知徹底を図っている。今後の社会で持て囃される最新の技術等をどのようにカリキュラムに取り入れるのかを、企業各社と連携しながら進めていく必要がある。業界で通用する実践力を養う事を目指し、制作プロダクションや出版社等とも連携をとっている。マンガ専攻は、審査会や講評会を年間を通じて随時実施し、採用担当者から個別にアドバイスをもらい学生の個性を活かす作品づくりを目指している。	
	②	当学院に於いては、専門士の学位が得られないので、日本国で就職・デビューを目指す学生には、通信制大学と提携し併学しながら学位を取得できるようサポートを行っている。	

2. 学校運営評価

5	2-1	学校の運営方針は定められているか	3
	①	各年度毎に開催される理事会で学校の運営方針が策定され教職員に周知される。運営方針に沿った事業計画は各学科長が策定し、授業担当者及び教職員が周知し実行している。日常業務に於いては、定期的に会議を開催し、その内容は夫々のセクションに周知され運営方針に沿った業務や教育活動が遂行される。	
6	2-2	学校の事業計画は定められているか	3
	①	事業計画は年度毎に作成される。これらは、学院長ほか学科長の承認を得て年度当初の学院全体会議に於いて教職員に周知され実行している。運営組織や意思決定の権限などは学院全体会議により決定している。	
7	2-3	運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	3
	①	運営方針は学院長及び学科長により作成されるビジョンシートに明記され、教職員に周知される。	
8	2-4	人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	3
	①	人事、給与に関する制度は法人の就業規則並びに諸規定によって定めている。	
9	2-5	情報システム化等による業務の効率化が図れているか	3

	①	情報システム化は、学籍、学費納付の管理等で効率的に運用されている。学生と教師が繋がり、時間や紙の節約、課題提出、連絡のやり取り、情報伝達も容易となるGoogleのサービスClassroomを導入し、教師が修学状況を管理・測定・充実できるように支援している。	
10	2-6	学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	3
	①	学院の運営については、学則および諸規定によって明確化され有効に機能している。また、教職員による運営組織について、組織図・校務分掌を作成し明確化している。	
11	2-7	危機管理体制は整備されているか	3
	①	所轄警察署の警備課担当者を招き、防災（地震）の講習会を実施している。火災については、緊急時の体制を所轄消防署協力のもと、校内で自主的な消防活動を組織し、施設設備の定期点検及び整備、避難経路を確認し周知徹底を図っている。また、定期的な避難訓練、学内にポスター等を掲示し随時注意喚起を行い、安全な学校生活を送れるよう努力している。※2022年度に於いては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し実施。オンライン授業や環境整備などを追加しながら教育環境充実に努めた。	
12	2-8	施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるように整備されているか	3
	①	施設・設備に関しては、年度毎の予算の中で見直しを行っている。教育の必要性に対応すべく、学科毎に新設備・備品の要望を提出し、学院全体の新年度予算を把握しながら優先順位に従い整備している。また、施設設備に不備が無いよう、教職員及び学生に対して常にメンテナンスを心がけるよう指導している。※2022年度は、コロナ感染者を出さないために、教室の空気の入替、授業終了後の清掃及び机の除菌を徹底し行った。	

3. 教職員評価

13	3-1	教育理念・目的が教職員間で共有されているか	3
	①	教員採用時の研修及び会議、ミーティング等に於いては、設置者、学院長から訓示があり共有される。また、学生には業界セミナーや企業・会社説明会、出版社・編集者添削会等を年数回実施する事により、具体的な仕事の理解を促している。全学科キャリア形成を見た上でのカリキュラム・教育方法を検討しながら、実施している。	
14	3-2	教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	3
	①	教員は、担当の授業に応じて専門性の高いスペシャリストを採用している。採用後も資格対策講座や業界セミナー、研修会への参加を積極的に促し、教育の質のレベルアップを図っている。また、学院長・キャリアマネージャー・学科長による授業観察・傍聴も行き、授業内容や教授法についての助言や忠告等を把握するとともに授業当者にフィードバックし、授業改善を行っている。学院長、教職員による授業参観や授業録画も行い、授業後の振り返りが効果的に行われるよう努めている。夫々教員の経験や能力、強みを把握しながら、教員の質の向上に努めている。	
15	3-3	教職員の評価を行っているか	3
	①	学生による授業評価は、前期と後期の年2回のアンケートで率直な意見や感想を募り、今後の教授に活かすようにしている。	

4. 教育活動評価

16	4-1	カリキュラムは体系的に編成されているか	3
	①	好きを仕事にし、多くの人達に喜びや感動を届けるクリエイターやアーティストを育成する為のカリキュラムとし、カリキュラムの編成や実施は、教育理念、教育目標を踏まえた上で、学院長・学科長のもとで体系的に編成し策定され、教育目標に沿って編成されている。また、カリキュラムは毎年見直しを行い、時勢の動向に沿った形で改編し、業界の求めるニーズを見据えた教育の方向性を見出している。	
	②	業界の入り口に立つための習得レベルは、明確に設定されているが、各種業界で即戦力となりうるスキルの向上を図る必要がある。	
17	4-2	授業評価の実施・評価体制は確立されているか	3

	①	成績評価は平常点、課題の提出率、定期試験、授業の出席率で評価する。演習科目は必要に応じ講義科目での解説時間を設けた上で配分している。好きを仕事にし、多くの人達に喜びや感動を届けるクリエイターやアーティストを育成する。	
18	4-3	目標達成に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員が確保されているか	3
	①	教員は、担当する学科・科目を教授する専門性の高い教員を採用している。また、夫々の知識と技術、業界での情報量に於いて専門性に長けているかを判断し、採用後も資格対策講座や業界セミナー、研修会等への積極的な参加を促し、教員のレベルアップを図っている。	
19	4-4	成績評価は適切に行われているか	3
	①	成績評価・単位認定基準は明確に決まっており、進級・卒業の認定も学則や教員配布用の学校運営マニュアルに示されている。また、単位認定は、学力と学習態度も精査し総合的に判断している。	
	②	入学時のオリエンテーション、2年次の進級ガイダンスにて、全学生に対して成績評価に関わる解説と資料を配布している。	
20	4-5	資格取得の指導体制はあるか	2
	①	資格・検定の取得は、必要に応じて学科ごとの目標として必修検定・資格を設定している。担任が学生の就職・デビュー活動をサポートすると同時に、進路ガイダンス、学内企業説明会、面接試験対策・筆記・実技試験対策など、就職・デビューに関する支援を計画的に実施している。担任による欠席指導・学生のカウンセリング体制も整えている。無断欠席した学生については、適宜、学生及び保証人等に連絡を行っている。授業についていけない学生には補講や単位取得が難しい学生は授業時間外での追加指導・サポートを実施し、状況把握に努めている。	

5. 学校運営評価

21	5-1	進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	3
	①	就職・デビューの支援については、担任と就職指導担当者が年間を通じて学内企業説明会や学生への個別指導を実施している。	
	②	1年次より、日本国内での就職・デビューを目指し、日本人学生と共に学ぶ科目も増やし、国籍や言語での劣等感を生じないようなカリキュラムを編成している。また、企業との連絡体制を強化し、求人情報等は迅速に開示できるようにして学生の就労意欲の向上を図っている。	
22	5-2	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	3
	①	学生が抱える諸問題は、カウンセリングスキルを習得する為の教職員研修を実施し、学生相談に関する体制の構築に日々努力している。また、日々の出席・学習状況を常に把握し、定期・不定期で彼らの学生生活におけるあらゆる相談に応じる体制を整えている。	
23	5-3	学生の心身の健康管理・自己・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	3
	①	学生の健康を支援する為、軽度の疾病については対応出来る体制を整えている。また、疾病の種類によって適切な病院の紹介ができるようにしている。健康管理面では、全学生に国民健康保険に加入させている。生活面での相談は、各国語で対応できる事務職員を配置し、事故や怪我などの緊急時においても母語での対応が可能となっている。緊急連絡先は学生に周知させ専任職員が24時間体制で対応している。	
24	5-4	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3
	①	専用寮はないが、学生寮保有業者や信頼のおける不動産会社と特別提携し、海外からの学生に対して住居支援を行っている。充実した留学生活を送ってもらうため、学生寮の管理者と連携し、随時学生情報を共有している。また、連絡の取れない学生は担任が住居先を訪問し状況把握等を行っている。学生全体の生活環境について定期的に調査を行っている。	
25	5-5	保護者と適切に連携しているか	3
	①	殆どの保護者が海外在住のため、保護者会等が開催できない状況であるが、学生には定期的に保護者への学校生活の状況を共有を図るよう指導している。また、保護者からの直接の問合せは随時対応している。	

	②	修学に不安のある学生に関しては、入学時に保護者とオンライン等での面談を実施している。出席率低迷や成績不良の学生は段階的な個別指導を行っている。常に問題が深刻化する前に、保護者にも連絡し改善を目指している。	
26	5-6	卒業生への支援体制はあるか	3
	①	第一期生が卒業した本年度3月時点に於いて「校友会」を発足し、卒業生・在校生を対象とした卒業生への活性化と支援体制を築こうと考えている。卒業生が目指している職業に就き、自己実現を果たせるよう就職支援に力を入れている。卒業後も、当学院で行われる年間を通じての就職・デビューガイダンスや各種特別講座への参加を可能にし、個別面談等の支援を実施。長きに渡り蓄積してきた就職・デビューに関する豊富な情報とノウハウで、きめ細かなサポートを行う。	

6. 在留管理と生活指導評価

27	6-1	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	4
	①	当学院では、法務省承認在留許可申請取次校として学生の在留資格を適切に管理している。入管法の留意点については学生への伝達・指導を定期的に行っている。在留資格更新の際は、事前に担当者が必要事項・書類について説明し申請を行っている。入学希望者にも在校生にも定期的に説明会を実施している。また、在留に関する最新情報は正確に把握し、問題のある学生に対しては個別指導を行っている。開校より現在まで、不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者は発生させていない。	
28	6-2	日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	4
	①	コミュニケーションで生じる諸問題を払拭するため、日本人の学生と外国人の学生との交流を積極的に促している。また、定期的に教職員または外部の関係者により、日本社会を理解するための様々な説明会を行っている。	
29	6-3	本邦の法令を遵守させる指導を行っているか	4
	①	提携の行政書士や東京都民安全推進本部発行の「外国人在留マニュアル」に基づき、日本の法律を学ぶ授業時間を設けている。	
30	6-4	常に最新の学生情報を把握しているか	4
	①	定期的にヒアリングを実施し、学生情報は常に最新のものとなるよう努力している。	

7. 学生の募集と受け入れ評価

31	7-1	学生の受入方針は定められているか	4
	①	入学するにあたり、当学院が求める学生像の明示、修得する知識と技術等の内容や水準の明示を行っている。	
32	7-2	学生募集活動は適正に行われているか	4
	①	学生募集方法、入学者の適性、入学者選抜において透明性を確保するための措置は適切に行われている。入学事務局を中心に進路相談、体験授業、出講ガイダンス等を実施している。コロナ禍のなか密を防ぐため、来校希望者に対しては個別相談会を実施し、来校不要なZoomやLINEによる個別トークを実施。入学するにあたり、当学院が求める学生像の明示、修得する知識と技術等の内容や水準の明示を行っている。	
33	7-3	学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	3
	①	当該生の就職やデビューに関する実績や成果作品等は、ポートフォリオや作品集として校内に設置・掲示したり、案内書・資料等の紙媒体に掲載、かつホームページ等で逐次開示している。	
34	7-4	入学選考は、適切かつ公平な基準に基づき行われているか	4
	①	入学選考は、実技試験、担当教師による面談、事務スタッフによる入学手続きの説明を行い、透明性を確保するための措置が第三者にも明確に理解できるようにしている。	
35	7-5	適正な定員設定及び在籍者数になっているか	4
	①	収容定員に対する在籍学生数の比率と適切性、定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応は適正に行われている。	

8. 財務評価

36	8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
	①	中長期的な観点で、新規の person 費や設備投資等のビジョンを持って取り組む必要がある。学生数の推移が大きく影響することから、如何に学生数確保するかが今後の課題とされる。新型コロナの影響により、オープンキャンパスの参加者が減ったのが懸念事項となっている。コロナの収束により来日学生を期待している。	
	②	毎年、剰余金を出すことで、自己資本比率を高め、基本金組入れ等を行い教育研究活動を継続的に行う上での安定した会計を目指している。	
37	8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
	①	予算は常に需要を創るという観点に立ち、収支計画を実施している。収入減が生じた場合、勿論経費等の見直しは余儀なくされるが、在校生が無事終業できる期間の現預金・現金等価物等の財源は確保されている。	
38	8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
	①	公認会計士による監査の適時実施、会計監査は毎年度実施している。	
39	8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	3
	①	財務情報の公開については、当学院ホームページ上での情報公開の準備を進めている。	
	②	今後も学生数を増加させ、財務基盤を安定させるため更に学生にとって魅力的な教育内容を模索していく。	

9. 法令等の遵守評価

40	9-1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
	①	弁護士・行政書士と契約し、法解釈等、不明な事案は随時相談し対応を協議している。また、各種行政指導や所轄長からの通知等が生じれば、各部署に回覧し周知させると同時に各会議等で確認して適正な運営をしている。	
	②	教職員に対する研修や学生に対する教育が不足している部分がある。学校全体の自己評価による改善策については少々不十分と考えている。	
41	9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	4
	①	「プライバシーポリシー」・「個人情報取扱いについて」を策定している。また、「個人情報保護規則」を作成し、年度初めには、教職員に対して周知徹底させている。これらは毎年、時勢に応じて見直し点検・改訂していく。	
42	9-3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に務めているか	3
	①	自己点検・自己評価に関しては昨年（令和4年度）から実施し、毎年行う事で問題点の改善に努めている。	
43	9-4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	3
	①	自己点検・自己評価結果は、教職員スタッフと共に精査し、昨年（令和4年度）から当学院ホームページに公開している。	
44	9-5	関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	4
	①	定期的に適切に報告を行っている。	

10. 社会貢献評価

45	10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4
	①	海外の提携校：専門学校・大学とのオンライン授業の開催。海外で開催のアニメ・マンガイベントへの資料提供等を積極的に行い、これからの業界を牽引する人財への就業教育と業界理解を深めている。ブラジルのマンガ学校とのオンライン授業では、日本のアニメ制作技術に大きな反響があった。通信制高校との教育連携を取り、アニメ・マンガ分野の実習を行っている。留学生専用寮でのアニメ・マンガイベントを開催。コロナ感染拡大前は、中学生のキャリア教育の一環である学校訪問や訪日外国人旅行でのアニメ・マンガ体験授業を開催。中野区役所産業振興課との連動によるイベントの開催など、地域イベント等に積極的に参加。また、日本語学校でアニメ特別講座等を開催。昨年末より、日本語学校との交流をはじめ、海外訪日外国人旅行の体験授業の申込みも増えてきている。学生作品をHP上に掲載する事で海外の方々からも高評価を得ている。留学生専門の担当者を配置し、受け入れから卒業後のサポートまで支援を行っている。	

	②	当学院の学校規模もあり、なかなか地域への貢献は充分にできていない状況である。コロナ禍でも実施できるような、オンラインなどを利用した地域に密着した貢献を行えるような体制づくりを検討する。
46	10-2	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか
	①	コロナ禍の状況の中で例年どおりのイベント開催は出来なかったが、ボランティア活動は、企業からの協賛を受け企業奨学生制度を設けている。また、学校支援ボランティアとして、日本語学校や海外大学の日本校等に赴き、当該生が関わる多様な体験、経験発表の場を設け、規範意識やコミュニケーション能力の向上のサポートを行っている。ボランティア活動は、学生が自発的な活動を促し、人間的な成長と共に学生生活、学校生活の満足度向上を図っている。

意見・提言・総括

<p>2021年4月に開校し、本年度3月に第1期生の卒業生を輩出した。第1期生に於いては、コロナ感染の影響により入国制限等もあり、学生数は定員の20%程であった、学生達の多くは、日本国でのアニメ・マンガ業界での就職・デビューを真摯に目指し、ハイレベルの課題を要求する学生もいて日本人学生や教職員にとってもいい意味での刺激となっていた。就職やデビューについては、アニメ会社、アニメ制作プロダクションへの応募呼びかけ、また漫画家やイラストレーターとしてのデビュー希望者には、各出版社、編集者等への作品紹介等を積極的に行う。また、当学院では実際のアニメプロダクションやマンガ制作スタジオを併設するとともに、業界関連各社とも深い繋がりがあり、技術の高い学生には在学中より各社でのインターシップやアルバイトが可能となり、卒業後は、そのまま就職という流れも構築できている。</p>
--

評価欄：4段階評価（4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切）

①現状と、行っている取り組み

②達成できていない課題と・改善計画

評価責任者 夏川 彰

記入日 2023年4月24日